

「スポーツの絆が生きるまち推進プラン」 京都市市民スポーツ振興計画（答申案）の概要

「スポーツの絆が生きるまち推進プラン」の策定に当たって

1 計画策定の趣旨と目的

「だれもが、いつでも、どこでも、いろんなかたちでスポーツに親しめる環境を、みんなで支えあう『スポーツごころ』を結ぶまちづくり」は、市民スポーツ振興の普遍的な理念です。

京都市では、この理念をもとに、京都市市民スポーツ振興計画「新世紀『スポーツごころ』推進プラン」（以下「前計画」といいます。）を平成13（2001）年に策定しました。

市民スポーツ振興の理念をまちづくりに生かし、市民のだれもがもっとスポーツを楽しむことができるようにするためには、前計画の成果と課題を踏まえて、京都らしい市民スポーツの将来像を描き、その実現に向けた取組を継続していくことが必要です。

このため、この度、平成23（2011）年度から10年間の市民スポーツ振興のための総合的なしくみづくりを目指す、京都市市民スポーツ振興計画「スポーツの絆が生きるまち推進プラン」を策定します。

2 計画の位置付け

平成23（2011）年度から10年間の京都の未来像と主要政策を示す「はばたけ未来へ！ ^{みやこ}京プラン（京都市基本計画）」の分野別計画

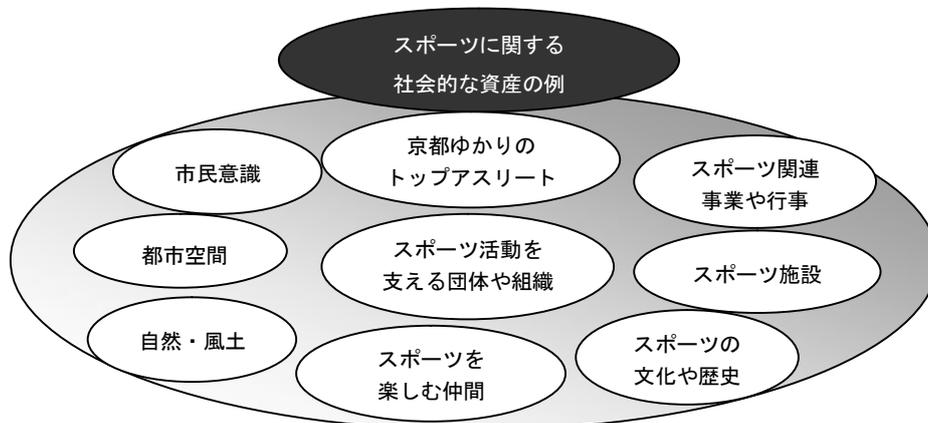
3 計画期間

- 平成23（2011）年度からの10年間の計画
- 中間年には計画の点検、見直し

スポーツの絆が生きるまち（施策展開の基本的な考え方）

<スポーツ資産の共有——「スポーツの絆が生きるまち」の土壌>

「スポーツの絆が生きるまち」の実現に向けて、これまで京都が培ってきたスポーツに関する社会的な資産（スポーツ資産）を共有し生かすようにします。



するスポーツ

みるスポーツ

支えるスポーツ

I 市民スポーツの現状と課題

現状

- ・市民のスポーツ実施率が高まり（週1回以上が10年前の36.1%→48.4%）、散歩やウォーキングなど軽い運動を中心に、まち全体でスポーツに親しんでいます。
- ・約30%の人が月に1日以上スポーツをしていない（できない）、あるいは全くしていない（できない）状況にあります。
- ・スポーツ施設の現状としては、多様な市民ニーズに応じた施設が不足し、老朽化も進んでいます。

- ・平成13年から10年間で京都市の地域密着型プロスポーツが3チーム（サッカーJリーグ「京都サンガF.C.」、プロバスケットボールリーグ「京都ハンナリーズ」、日本女子プロ野球リーグ「京都アストドリーム」）に増え、駅伝をはじめ市民がトップレベルのスポーツに身近に触れる機会が増加しています。
- ・プロスポーツの試合環境・観戦環境は、市内企業による支援が進んでいる一方、施設・設備面ともに十分ではない状況にあります。

- ・運営ボランティアの参加者は、3.1%、今後のボランティア参加希望は約20%です。
- ・本市のスポーツは、体育振興会や体育協会などの活動によって支えられています。一方で、活動の場の不足、人材の固定化や高齢化、情報発信力の不足など新たな展開を図るには大きな壁に直面しています。

課題

- ・身近な場所の環境整備や気軽に参加できるプログラムづくりを進めるとともに、効果的な情報提供サービス方法について検討していく必要があります。
- ・既存施設の配置や機能の見直し、府市協調の促進も視野に入れ、市民がスポーツに親しむことのできる施設整備を進めていく必要があります。

- ・市民がプロスポーツを支えているという意識をさらに高めていくため、プロスポーツチームと地域との交流を促進する必要があります。また、国際的・全国的規模の競技大会の誘致を前提とした施設・設備の充実が求められ、京都府との協調や民間企業とのさらなるパートナーシップの推進も求められています。

- ・スポーツを支える活動への参加促進に向けた取組をする必要があります。
- ・各関係団体が抱える課題の解決及び活動基盤の強化に向けて、情報の共有や人的交流の活性化など連携のためのしくみをつくる必要があります。

II みんなでめざす市民スポーツ振興の10年後の姿

10年後の姿と目標（数値）

それぞれの年齢や個性、環境に応じてスポーツを楽しんでいる

週1回以上運動やスポーツをする市民の割合
 現況値 48.4%
 ↓
 65%以上

トップレベルのスポーツに身近に触れられている

市内でプロスポーツやトップスポーツを直接観戦した市民の割合
 現況値 24.4%
 ↓
 30%以上

多様なスポーツ活動を支え合い、ひととひとがつながっている

スポーツ活動にボランティアとして参加した市民の割合
 現況値 3.1%
 （運営ボランティアとしての参加に限定した割合）
 ↓
 10%以上

* 現況値は、平成22年度市民アンケート調査の数値

III 主要な施策

ハードウェア

施設の効果的・効率的な整備

- ・アセットマネジメント（施設の効率的な管理・改修をし、施設の延命と有効活用を図ること）の推進
- ・環境にやさしい効率的な設備の推進
- ・ひとにやさしい施設の改修・整備
- ・地域体育館の充実
- ・郊外型運動公園の整備
- ・身近なスポーツ環境の整備
- ・市民に身近な施設の利用促進

競技環境・観戦環境の充実

- ・国際的・全国的規模のスポーツイベントに対応した施設の充実
- ・国際的・全国的規模のスポーツイベントに対応したバックアップ機能の充実
- ・環境にやさしい効率的な設備の推進（再掲）
- ・ひとにやさしい施設の改修・整備（再掲）

だれもが利用しやすい施設の提供

- ・市民に身近な施設の利用促進（再掲）
- ・ひとにやさしい施設の改修・整備（再掲）
- ・ボランティア活動拠点の確保

ソフトウェア

スポーツをみずから楽しむ機会の提供

- ・施設の柔軟な管理運営及び良質なサービスの提供
- ・気軽に体を動かすための場の設定
- ・スポーツの仲間づくりへの支援
- ・スポーツを楽しむためのプログラムの提供
- ・ニュースポーツの普及・振興の取組の強化
- ・障害のある市民などが参加しやすいスポーツの普及・充実

総合スポーツイベントなどの開催

- ・「京都マラソン」の開催
- ・地域密着型プロスポーツチームの振興
- ・国際的・全国的規模のスポーツイベントの誘致促進

スポーツを支えるしくみづくり

- ・施設の柔軟な管理運営及び良質なサービスの提供（再掲）
- ・個人・団体への表彰制度の充実
- ・市民ボランティアのしくみづくり
- ・体育指導委員（スポーツの実技の指導などを行う、スポーツ振興法に基づく非常勤公務員）制度の充実

ヒューマン

スポーツやレクリエーション活動を支える人材の育成

- ・市民の多様な活動を支える人材の育成、活動の支援
- ・スポーツボランティア制度の創設

競技スポーツへの支援とその魅力の活用

- ・「京都スポーツの殿堂」事業の推進
- ・競技団体やプロ団体への企業支援の促進
- ・スポーツボランティア制度の創設（再掲）

スポーツを支える組織の人材の確保・育成

- ・体育振興会、体育協会への支援
- ・スポーツボランティア活動への支援

計画推進のための3つの重点戦略

1 スポーツ施設の充実、整備 ——ハードウェア—— スポーツ資産の共有、市民のスポーツ活動に応じた施設の充実・整備

活発なスポーツ活動を維持するためには、健康や体力づくりから、スポーツ観戦、スポーツを通じた仲間づくり、ボランティア活動、競技者の育成など市民の多様なレベルのニーズに対応した活動の場・施設をスポーツ資産として有効に活用することが大切です。

このため、市内の施設の利用状況を踏まえつつ、身近な場所でのスポーツ（生活圏）、生活圏を越えたスポーツ（広域圏）、国際的又は全国的規模の競技・観戦という市民の活動範囲や活動レベルに応じ、施設の充実・整備に取り組みます。

2 「スポーツウェブ京都」 ——ソフトウェア—— スポーツ情報を身近なものに、容易に入手できるものに

市民のだれもがスポーツに親しむためには、スポーツに関する情報を容易に入手できることが大切です。このため、だれもが利用できるスポーツ情報網の整備に取り組みます。

スポーツに関する情報を容易に入手できる効果的なしくみをつくるため、室内でもできる手軽な運動やスポーツ施設に関わる情報など多様な情報を集約し、内容を分かりやすく分類・整理したスポーツ情報データベースを構築します。

3 「京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議」（スポーツリエゾン京都） ——ヒューマンウェア——

推進組織の構築

市域のスポーツ関係団体等の実践者である京都市市民スポーツ振興計画策定委員会の委員が中心となって、「京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議」（スポーツリエゾン京都）を創設し、計画の進捗について評価・助言を行います。

*

「京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議」（スポーツリエゾン京都）は、次の展開として人的交流や情報交流の場として、さらには、福祉・教育・環境などの関係市民団体や企業、大学などにもネットワークを広げ、各団体間に協力・連携関係を形成・発展させ、市民スポーツの様々な団体間の調整や協働事業を推進するなど、市全体のスポーツの活性化につながる活動の母体としての役割を担います。